

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 事業所番号 (0173800525), 法人名 (株式会社 イワクラ), 事業所名 (グループホームゆーあい天馬②), 所在地 (新冠郡新冠町字中央町17-11), 自己評価作成日 (令和3年9月29日), 評価結果市町村受理日 (令和5年12月5日).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。
基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0173800525-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 評価機関名 (企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部), 所在地 (札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階), 訪問調査日 (令和5年11月9日).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は当社の敷地を宅地開発し、一面に平屋建て2ユニットのグループホームとして平成15年10月に開設してより20年余りが経ちます。近隣は新興住宅地であり、新築住宅も多くなってきており比較的若い世代も多く子供の遊ぶ姿も見受けられます。当社もこの住宅地の中に3階建ての賃貸マンションを所有しており、当ホームの職員も代用住宅として数名が居住しています。緊急時には大変協力的な戦力として頼りになっています。この地域の中で生活を継続出来るよう近隣の方々には積極的に行事等の参加を呼びかけてきました。近年は近隣の方々から楽しみにされている事が伺えますが、現在コロナ禍の影響にて行事の開催は延期にしましたが来年こそは開催できる事を願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、日高管内新冠町の市街地に位置し、閑静な住宅地にある平屋建て2ユニットのグループホームである。旧JR新冠駅から徒歩圏内で、家族や友人・知人も訪問しやすい利便性のいい地区である。法人は、胆振日高管内を基盤として、道内を中心に全国的に展開している建材及び建設関連の大手老舗企業で、地元からの信頼が厚い。2つのユニットは道路を挟んで隣接して建てられており、それぞれ大きな住宅のような感じで、利用者も我が家に住んでいるような様子で、日中は陽射しの良いリビングで寛いで過ごしている。事業所主催の夏祭りなどの行事には、家族や地域の方の多数の参加があり地域の行事にもなっていたが、コロナウイルス感染症対策の為、休止としていたが来年度の再開を予定している。また、避難訓練などの災害対策も地域の方の参加で協力体制が構築されており、更に、町内に社宅があり職員が複数居住しており緊急時対応が可能である。ホーム内には、職員がゆったり寛げる休憩室など配慮された造りで、温もりを感じるホームである。これからも認知症高齢者の事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Status (radio buttons), and Achievement Details (numbered list 1-4). Rows 56-62 cover various service aspects like staff-user relationships, safety, and support.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念を掲げており、管理者、職員は朝の申し送り(夜勤者の引継ぎ)後や、月1回のミーティング等で唱和し、理念を共有し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とつながりは毎年恒例になっていた夏祭り等はコロナ禍の影響で3年あまり開催が出来ず近隣方々とは交流の場も途絶えています、状況が落ち着いた時には再開をする予定をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	街の医療と福祉の情報誌などを活用して当ホームの職員等の紹介など、内容も含めて掲載しており地域に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ禍の中で書面にて開催もありましたが、概ね年6回の開催を維持してきました。平成30年より家族の参加が不在でしたが、令和3年より家族の方も参加に同意を経ており、助言を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎年、町主催の町内福祉関係事業所と町長、副町長また関係部所の担当者などと懇談会を開催して各事業所等よりの実情や要望等にて、大きな成果もあったが、現在はコロナ禍の影響で中断が続いている。再開を望みます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開催し、各ユニットで拘束しない取り組みについて話し合っています。また玄関の施錠は夜間のみとしており、契約時に防犯等の理由を説明しご家族様に承諾を頂いています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナもあり、なかなか研修に参加は出来ずにいるが、身体拘束委員会と結びつけ、各ユニットや委員会で話し合いを行い、虐待がないよう注意を払い、防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各ユニットごとに日常生活自立支援事業や成年後見制度等の勉強会を行っている。現在、成年後見制度を活用している入居者はいないが、必要が生じた場合に備え活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族の不安や疑問等は十分な説明をし理解を頂き締結している。また入居後も来訪時に理解や納得して頂けるように努めている。契約事項の改訂時は説明し文書にて同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営状況では毎月、ホームの便り、ゆーあい通信を送付して、ご家族等に報告し要望など来訪時には聞き取りをして、ミーティング等で話し合い利用者家族の意見等は運営に反映できるように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見はミーティング等で集約し幹部会議にて話し合い、その意見や提案を反映させ事業所での定期的な研修や個人面談も実施しており、意見等は運営に反映出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の就業環境を向上させる為の整備として今回育児、介護休業等に関する規定を一部改訂し現在の環境に添うものとして整備している。資格取得を目指す職員に対して自治体の助成金も活用し、研修費用の負担も支援規定を設けて積極的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	慢性的介護職員不足は続いている事もあり資格者職員を確保する事は厳しい状況にあり事業所内で勤務評価を把握し各種の研修会等への参加を促しその費用を投資して人材を育てる機会を確保して行く取り組みもしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業各社との交流では地域の社会福祉法人理事長や近隣の同業経営者とも親交もあり、不定期ではあるが、各問題が招じた場合には情報交換をして今後の活動やサービス向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に、本人の希望や不安等をお聴きし、信頼関係を築けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に、家族の希望や不安等をお聴きし、信頼関係が築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に家族の困っている事、要望等を聞いています。出来る限り必要とされるサービスが提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、出来る事、出来ない事を見極め、一緒に行うようにしています。例えば、食器拭き、手すり拭き、コップ拭き、洗濯たたみ等。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時は、コロナ対策を徹底して頂き、ゆっくりとお話して頂けるよう配慮しています。また、電話でお話して頂く等もしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、家族以外の面会等は制限していましたが、希望があった場合は、ドライブや買い物に出掛けています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、配席等工夫しています。利用者同士楽しそうにお話しされていることが多く見られます。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等は特にありませんが、ご家族様を見かけた時はその後の経過等を聴き、ご家族様をフォローすることはあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望等はなるべく聞き入れ、その場で困難な場合は職員間で協議し叶えられるように努力しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話の中や、ご家族からの情報収集に努め対応しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の生活リズムの過ごし方や心身の状態を確認し、把握できるよう対応しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人一人に担当入居者を決めて、モニタリング、計画立案の意見を出し合っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を観察し、正確な情報を記録し、職員全員が把握、共有しすぐに対応できるよう取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて、通院介助、買い物支援等対応し取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナのため、回数は少ないが、地域で実施している催事へ参加同行し多くの方たちと関わりが持てるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣のかかりつけ医を持ち受診し、家族の意向等を相談したり、専門医の受診等も行っています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調変化やバイタルの観察をし、異変が生じた場合は、かかりつけ医に電話連絡で相談し、受診、治療を受けられるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族、病院と情報提供、情報交換を行い、早期退院に向けて努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	現在看取りは行っていないが、重度化や終末期については、医療機関の説明等を、家族と話し合い行っています。 必要があれば、地域の関係者と連携をとっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、定期的に消防の救急救命の講習を受けています。 応急手当や初期対応の訓練もしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力を得て、年2回自主避難訓練を行っています。また町の避難訓練にも参加しています。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、その方にあつた声掛けを心がけています。 日々ケアにおいて個人情報保護法に基づいた支援や、プライバシーの配慮に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に声掛け、観察し、要望や希望等を傾聴し、自己決定できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人一人の生活のペース、希望をお聴きし、安心して過ごすことが出来るよう支援しています。 また、希望に添うような支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族に好みをお聴きし、自由に身だしなみができるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食べものや好みの食べものを事前にお聴きし、苦手な食べものに代わる物をお出しする等、楽しく食事をして頂けるよう工夫しています。また、調理のお手伝いや、食後の片付け等、職員と一緒にさせて頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、十分でない時は他の食べ物や飲み物で補うようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の口腔ケアで、義歯の洗浄や歯磨き等見守り、時には一部介助する等本人の能力に応じて適切な支援をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の習慣や状況を把握し、プライドに配慮した声掛けを心がけ、本人の出来る範囲で自立に向けた支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事の工夫や、排便体操、散歩等を行い、便秘の予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日は週3回と設定しているが、個々の希望や断られた時は無理強いをせず、いつでも入浴できるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠を把握し、夜きちんと眠れていない時は、日中にお散歩や軽運動を取り入れたり、休息の時間を取って頂いたり工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理しており、服薬時は見守りを行い、確実に飲み込みまで確認しています。薬の変更があった場合は、受診記録に記載し、全職員がしっかり周知し、様子観察を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器拭き等の軽作業のお手伝いや、外に出て散歩や花壇の整備を通して気分転換を図っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩に出掛けたり、行事を計画し買い物やドライブへ行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで行っており、希望に応じて買い物をしたり、本人の申し出があれば金銭の出し入れがスムーズに出来るよう努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時は、家族に電話や手紙等のやり取りが出来るよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁飾り等で季節感を出しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係を把握し、食事のテーブル席等に考慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたもの等、馴染みのある物を持参して頂き、居室に設置し、なるべく生活環境が変化しないように配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	軽作業を通して身の回りのことは、出来る限りご自分でして頂けるよう環境づくりにも配慮しています。		